

点数であらわせない  
生きる力をつけることが大事です

Interview Yorii

子どもの感性は6歳までに培われるといいます。寄居の恵まれた環境はまさに「自然先生」。鳥の声や土の感触など、できるだけ本物に触れさせながら、子どもがみずから育つ力と可能性を引き出してあげたい。丈夫な体があれば気持ちも丈夫になります。点数で表せない「生きる力」をつけることが大事ですね。

ゆずの木保育園 園長 新井理恵さん

自然環境に恵まれた寄居で、みずから育つ力と可能性を引き出してあげたい



「この泥ダンゴ、ほくがつくったんだよ！」  
本物に触れ、感じることも「生きる力」の土台に

議会はこの事業・予算に注目!

■ 学力向上対策事業 (3083万5000円)

より・E土曜塾…オンライン授業オンデマンド配信の活用を含め中学校全学年を対象を拡大

算数検定費用無償化…対象を「小学2年生～6年生までの全児童」に拡大

英検受験を中学校全学年1回無償化。より・E小学生英語塾受講者の希望者に対して、英検5級の受験費用を無償化

■ 学校給食食材購入事業 (1200万円)

食材の高騰に伴い、学校給食の食材購入費の一部を公費で負担し家計を支援

峯岸新町政 重点施策 03

教育は最も確実な未来への投資



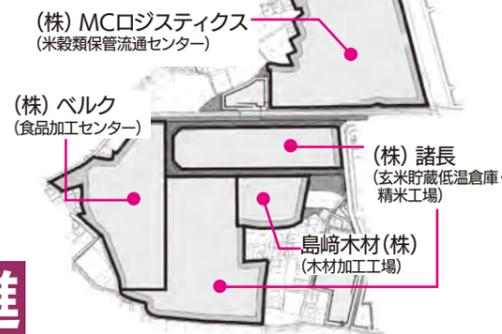
教育施策の充実・強化

ギカイの視点

少子化対策、子育て支援同様、強化されたことも予算。学力向上の基盤となる幼児期の非認知能力(物事に対する考え方、取り組む姿勢、行動など、日常生活・社会活動において重要な影響を及ぼす能力)に着目することが重要。

非認知能力にも着目を

「立地予定企業、決まる!」寄居桜沢産業団地



峯岸新町政 重点施策 02

稼ぐ場も使う場もある町に!



地域内経済循環の促進

ギカイの視点

地消地産と町民の消費行動を連動させ、町外から獲得した資金を町内で循環させ、雇用と所得を持続的に生み出す自立的な経済構造「地域内経済循環」を目指す。新設の「産業振興企業誘致課」で各種産業の総合的振興の実現へ。経済の根本は人。異業種間の人と人のつながりをいかに活かせるかが成功のカギ。

「つながり」活かせるか

議会はこの事業・予算に注目!

■ 地域通貨 Yori-Ca (ヨリカ) 事業 (1億5079万4000円)

30%プレミアムキャンペーンや1%ポイントバック、よりいウェルカムキャンペーン

■ 住宅改修資金補助事業 (800万円)

1回限りの利用から「5年経過後、再申請できる」ように

■ 新規就農者育成総合支援事業 (300万円)

最長3年間の営農資金を交付

井伊さんが講師を務める「よりい週末有機農業塾」HP→



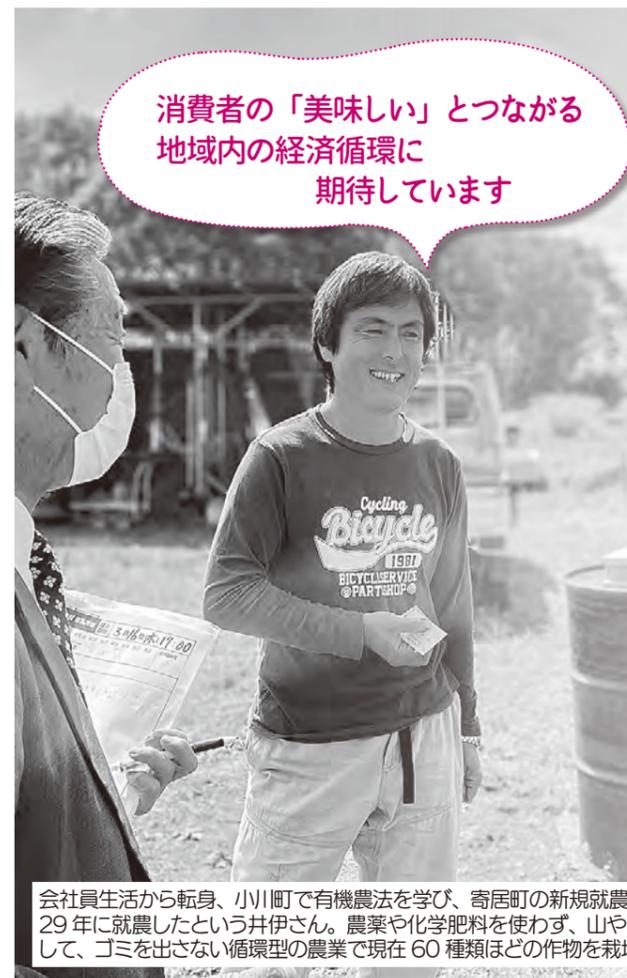
消費者の「美味しい」とつながる地域内の経済循環に期待しています

Interview Yorii

職業としての「農業」を選択する人に加えて、家庭菜園でもいいから自給的に田んぼや畑に自ら価値を見出す人や、地域の農産物を買って支えてくれる「農業応援団」を増やしたいと思っています。今は町内の飲食店や町外のスーパー、ネット販売等を行っていますが、作った野菜を料理し、「美味しい」と食べてくれる消費者とつながることで、さらに地域内の経済が循環していければ、とても嬉しいことです。

また寄居町は、農林業の条件が整っていないところだからこそ、「農地バンク」などの周知(情報発信)に力を入れ、新規就農を考えている人たちが町にしっかりと根づくよう、丁寧な橋渡しをしてほしいですね。

井伊農場 井伊 誠さん(男)



つくられた野菜は町内の居酒屋で季節ごとの「小さな畑」を食べるメニューにも!



会社員生活から転身、小川町で有機農法を学び、寄居町の新規就農支援事業を活用して平成29年に就農したという井伊さん。農薬や化学肥料を使わず、山や田畑でとれる資源を活用して、ゴミを出さない循環型の農業で現在60種類ほどの作物を栽培しているそうです。

新設の「産業振興企業誘致課」に期待